



ららばい通信

Lullaby News

2021年
秋号

『コロナ奮闘記』



画／大野隆司

[目 次]

- 特集「コロナ奮闘記」
 - 新型コロナウイルス感染闘病記 相川 厚 …2
 - 健康法閑話 …4
 - 心と身体の健康 …5
- INTRODUCTION／「感染症文学論序説」 …6
- COLUMN／ろう障がい者の子守唄 POEM／夜のお散歩 …7
- 絵解き 風流子ども歳時記
秋の夜長の怪談「続百物語」の巻 尾原 昭夫 …8
- 連載 世界子守唄紀行 第30回
「旅のおわりに 人はなぜ子守唄を歌うのか」 鶴野 祐介 …12
- 連載 直島便り 第5回
「海に落ちた黄色いカボチャ」 山根 光恵 …14
- COLUMN／母さんの子守唄・男のひとり料理 …9
- 子ども配食の現場から ② 樋田 敦子 …16
- 活動報告 …17
- 寄付者名簿

令和3年

ららばい通信 秋号を

お手元にお届けさせていただきます。

日本の秋は美しい。空は澄み、緑の木々が落ち着いた深さを増し、実りの田畑の恵みが食欲を満たし、虫たちは合唱し、十三夜の月の光は闇を照らし、遠くからお囃子や太鼓の音が聞こえてくる…そんな風景が浮かびます。

しかし、今年もまたその秋は堪能することも叶いそうもありません。コロナは人間の文化を根底から覆すものなのでしょう。早く早く収束してほしいと思います。

先のない不安が生活にも影を落としています。人たちの行動も常軌を逸する事件が起こり、陰惨な事件はとどまることを知りません。貧困や失業、精神的に追い詰められる、ストレスの発散と原因は様々ですが、本当はこの時期こそ、私たちは自分の周りに目を遣り、自分を見つめるにより時期と考えたいと思います。

「ほろは着ても心の錦」という唄があります。お金や物質的に恵まれていれば富んでいるし、なければ貧しいとされる現代。確かに生活を助けるには金銭や物は必要ですし、貧富の判断にはなるでしょうが、本当の判断は精神の上にあるという、この歌詞にはそんな教えもあるのではないのでしょうか。

繁栄の時期、私たちの「富みたい」という欲はきりがありませんでした。哀しいかな、人の欲とは満たされた時は、すでに次の欲に取りつかれているというではありませんか。「欲は塩水をのむのと一緒」とか、のんでものんでも渴きは大きくなるばかりということのようです。お金や物質の欲に取りつかれると、そこから抜けられない欲の連鎖に取りつかれていくということのようです。

一方、現実を見れば、「貧すれば鈍する」と、いう言葉にも納得があります。あまりの逆境にあうと心はすさんでくるということも事実なのです。

心は錦でありたいと思っても、そんな余裕すら持てないという方も沢山います。だからこそ、この時期お互いが自分の欲を少しセーブして助け合いたいという原点に、今二度振り返る時期がコロナの時代なのだと思います。

灯火親しむべし…秋の夜長の読書、そんな言葉が今では懐かしく感じます。

先日、板橋平和公園内にある「板橋中央図書館」を訪ねました。館内にある「いたばしポロニア絵本館」を見学しました。

板橋区はポロニアと長い交流があり、2005年には「友好都市交流協定」が締結されました。図書館の立つ背景の落ち着きと暖かさ、自分の書齋感覚の心地よさ、何時間いても飽きることはなさそうです。

素晴らしい国際的な絵本の展示に、幼い日に返ったような心の高揚を覚ええました。絵本や多言語に翻訳された多くの作品たちは、子供に届けたという心が行き届き、単に本を沢山集め、並べたというものではない事がよくわかりました。

読書の大切さ

日本ららばい協会 理事長 西館 好子

本は心を育てる上でどんなに大事で必要か、ここに来て更によく理解できました。本は身近になくてはなりません。なぜなら読書は習慣性がつかないとなかなか身につかない物だからです。本との出会いは子供にとってどんな宝石よりも美しい宝物なのですから。

本が一生の指針になることがあります。美智子皇太后さまは新美南吉の「でんでんむしのかなしみ」に出会い、人には誰も悲しみを持っていて、でんでんむしの背中の殻の中は悲しみの一杯なのだとなりました、それは皇太后様の大きな慈愛の心へと

結びついていったのだと私は思いました。また「泣いた赤鬼」の著者である浜田広介さんは、母親と田舎道を散歩していた時、目の前を一匹の虫が道を横切っていくのを見ました。「向こうに渡りきるまで見守ってあげましょう」という母親の言葉で、優しさや生きていく賢明さを学んだということとです。二人はしゃがんで虫が道を横断するのをじっと目でその虫を追い続けました。

その思い出は、どんなものにも「思いやる心」を大切にしようという学びになりました。浜田広介さんは後に日本の代表的な童話作家になり、多くの名作を残しました。

本にひよいて、多岐にわたる本が、本と友達になれる機会を作るのだと、小さな子供を持つお母さん方には是非知ってほしいと思います。「読み聞かせ」が流行っているのもとてもいいことだと思えます。本の活字の間には読み手の伝達の知恵が入ります。上手に読むのではなく、伝い手として読むべきかもしれません。本は読まない子供が増えていくのではなく、実は本を読めなくなっている子供を私たち大人たちが作ってしまったのかも知れないのです。まずは私たち大人たちが本を手にとってみるところから始めてみましょうか。

世界の子供

〈北原 白秋〉

子供なんだ、子供なんだ、われわれは、

世界の子供だ、みんな遊ぼう。

大きなお日さん、あお空だ。

見ろ、見ろ、明るいあお空だ。

子供なんだ、子供なんだ、われわれは、

世界の子供だ、よく伸びよう。

どこでもかがやく、地の上だ。

立て、立て、緑の地の上だ。

子供なんだ、子供なんだ、われわれは、

世界の子供だ、手をつなごう。

誰でも善い子だ、輪になった。

来い、来い、国々、輪になった

子供なんだ、子供なんだ、われわれは、

世界の子供だ、愛しよね。

日本の子供が叫ぶんだ

やめ、やめ、戦をなくすんだ。

子供なんだ、子供なんだ、われわれは、

世界の子供だ、みんな歌おう

世界がよくなる、ほんとうにだ。

見ろ、見ろ、よくなる、ほんとうにだ。

特集

新型コロナウイルス 感染闘病記

日本ららばい協会理事、東邦大学名誉教授 相川 厚

昨年3月下旬に新型コロナウイルス(COVID-19)に感染し、20日間にわたる入院とその後の仕事への復帰までの闘病について、皆さんの参考になればと執筆します。

【感染のきっかけと濃厚接触者】

私がCOVID-19に感染してT大病院に入院したのは2020年4月5日からで、最初の緊急事態宣言が出た2日前になります。3月27日の群馬県の病院からの帰りの特急電車で、途中の駅からひどく咳をしている乗客が乗ってきて、ほかにいっぱい席が空いているにもかかわらず、隣に座ってき他のです。よほど席を変えろうかと考えましたが、指定席だったので遠慮してしまいました。お互いにマスクはしていたのです。約1時間の咳の飛沫を浴びたことになりました。

その日の午後8時から赤坂で3人で会食をしました。しかし会食では我々3人しか客がおらず、他の2人およびお店の方も感染はありませんでした。群馬県の病院で手術を行っていたため、手術の助手と2人の看護師は濃厚接触者とな

院後、夜間熱が39℃以上出ることが続きましたが、酸素飽和度は96%以下にはならず、4月11日(入院6日後)咳はありましたが、熱は下がり、食欲もできて、倦怠感も和らぎ、PCR検査でも陰性になりました。CTでは左右の肺炎像が見られましたが、それほど進展はありませんでした(図2)。私が飲んでいた降圧薬はCOVID-19の受容体と同じ部位に結合するためか、血圧が80/40になり中止しました。体調が良くなったためか大部屋のコロナ病棟に移動することになりましたが、その晩から咳がひどくなり、4月13日のPCR検査では境界域、14日は陽性になり、左側の肺炎も悪化してしまいました。PCR検査結果は陰性と陽性しか報道されていますが、実はウイルス量がコピー数として報告されます。T大学では0/4陰性、4/8境界型、8以上陽性と判定されます。あとからわかったのですが、入院前のPCR検査の結果は800万コピーで、とてもないウイルス量が検出されています。このウイルス量からスタッフは私が重症化するのではないかと心配していたようです。入院前には志村けんさんが、そして入院中の私の肺炎が悪化している時に、女優の岡江久美子さんが急変して亡くなったことが報道され、自分も死んでし

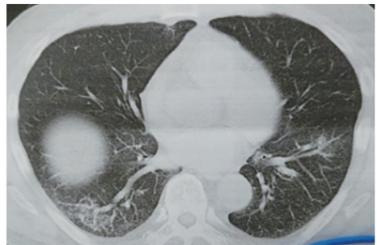


図2 右下肺野および左下肺野の間質陰影矢印の部分が肺炎を示している。左の丸い影は肝臓の一部が写っている(正常)。重症化すると影が広がり、肺全体が白くなって息ができなくなる。

して約1週間隔離されましたが、感染はありませんでした。3月24日、私はT大病院外来で多くの腎移植患者を診察しました。また3月26日に私の担当患者が2人入院したので、そこへ回診したことが問題となりました。移植患者は免疫抑制薬を飲んでいいため、感染しやすく、重症化しやすいのです。私も含め病院長や外来スタッフは、クラスターが発生するのではないかと心配しましたが、調査したところ誰も感染はしませんでした。治療をする医師が患者にうつしてしまふことは、最悪の事態です。

【入院前の経過】

3月30日37度の微熱が出て、31日には39度の高熱になり、次第に倦怠感が出てきたため、4月3日の大病院の発熱外来を受診し、PCR検査を含めた、血液、尿検査を行って結果を待ちました。当日は歩行するのがたいへんなぐらい両足がだるく、倦怠感が強かったのを覚えています。結果は陽性だったので、まだそれほど患

まうかもしれないと不安に駆られました。幸いにも、次第に症状や検査データが改善し、血圧も高くなってきたので、再び降圧剤を飲み始めました。4月23日、24日のPCR検査で2回連続陰性になり、さらに24日の抗体検査でIgM、IgGともに強陽性であることがわかり(図3)、25日に退院しました。IgMは感染後すぐにできますが、すぐに消える抗体です。一般に言われているウイルスに対する抗体はIgGで、最近ではワクチンを2回打つても3か月で消えてしまうため、3回目のワクチン接種が検討されています。

現在では症状がなくなってから7〜10日間でPCR検査もせず、退院を許可していますが、当時は2回連続でPCR検査が陰性にならないと退院はできませんでした。



図3 抗体検査。ピンクのバンドは抗体があることを示している。

【退院後の自宅での経過】

退院後、自宅では咳や痰はまだありましたが、熱はなく、倦怠感もなくなり、5kg減った体重もあったという間に元に戻りました。3週間の自宅療養をして、仕事に復帰したのは退院後4週目でした。2020年7月、10月の抗体検査でも陽性で、ワクチンとは違い、ウイルスに直接感染したためか、ずいぶん長く抗体が残っていました。妻は、入院後発熱し、さらに酸素飽和度が92〜93%に下がったため、アビガンを投与され、2日後には解熱して、体調を徐々に取り戻

者がいなかった個室のコロナ感染病棟に入院しました。私の妻は、熱はなかったものの、4月2日には味がわからないと訴え、3日には微熱が出たため、自宅感染を疑われ、一緒に入院してPCR検査を受けました。結果は陽性でした。私は友人、患者、スタッフにはうつしていませんでしたが、家庭内感染で妻にうつしてしまいました。

【入院後の経過】

入院直前、胸部CT検査を行い、肺炎がないことが確認され、酸素飽和度も96〜98%であったため、軽症と診断されましたが、39度の発熱があったため、細菌感染の合併も疑われ、抗生剤とナファモスタットが投与されました。さらにステロイドの吸入薬であるオルベスコを1日3回吸入しました。ナファモスタットはコロナウイルスの感染阻害効果と同時にCOVID-19の血栓形成を抑制する効果もあると指摘されています。入院した当初下腿のだるさとともに、足が赤黒く、皮膚が格子状の皮疹が出ており、ウイルスによる血管内皮障害から血流障害を起こしていたものと自分で診断していました(図1)。COVID-19の血栓で脳梗塞や心筋梗塞、足を切断了ら報告もあるので、ナファモスタットを投与されたのは私にとって幸いでした。入



図1 両足が赤黒く変色した。COVID-19の感染で血管が障害され、足への血流が低下している。

し、26日に退院しました。最近では酸素飽和度が80%にならないと入院できないと言われ、危険な自宅待機患者が多くなります。退院後、妻は味覚障害が残り、特にクリームパンの味が全くわからず、回復するのに約3か月かかりました。妻から帯を2本買いたいと言われ、自分がうつした弱みから、罪滅ぼしで〇〇万円の高価なブレゼントをしました。

もし退院して、元氣になれば、なにか一つ新しいことを始めること、そしてなにか世の中のために貢献出来たらと思ひ、スペイン語を勉強し始め、理事をしている日本ららばい協会を虐待児の相談やシングルマザーの支援について協力をする決意です。医療費は無料で、入っていた保険からも支払いがあり、2か月間働けなかった割には、生活に困ることはありませんでした。しかしこの間、孫にも会えず、映画やテレビ、本ばかり読む、ひきこもりの生活でした。

【最後に】

幸いにも二人とも後遺症は残らず、昔と同じ生活ができるようになりました。私も妻もすでに2回目のワクチン接種は終わりましたが、デルタ株の影響を考慮して、再感染には十分留意しています。デルタ株は私が感染した株より感染力が強く、重症化しやすいため、ワクチン接種が推奨されます。東京ではやっと新規感染者数が減少傾向になっていますが、まだ収束するには至らず、マスク、手洗い、うがい、換気などの十分な感染対策が必要です。私の実体験の闘病記が皆さんの参考になればと思います。

特集

健康法閑話

今から40年も前の話である。『慧日』という小冊子に掲載された「健康法閑話」が実に面白い。コロナでワクチンだ、抗体カクテルだと騒がれる時期だけに、こんなシンプルな風邪の治療法のやり取りを、菊池令照さん著の「風邪の話」から抜粋してみました。

——汗をかくことはそんなに悪いことなのでしょうか。

「汗には体温を調節したり、体内の毒素を体外に排出するなど、重要な作用がありますが、汗をかいた後には、忘れてはならぬことがあるのです。寒さに遇うと風邪をひくから、暖かくしておかねばと赤ん坊の部屋を暖かくし、着せすぎます。そのため、かえって風邪をひきやすくなります。いつも汗をかいて育った子は、日陰で育った草や木の苗のように、ひ弱で腺病質になるから、母としては失格なのです。掌の湿りと足の指で判断できますから、温めすぎないことが大事です。その後は水分補給と塩気、ビタミンCを多く摂ることです」

——風邪の話で、予防注射に期待するなど言われましたが…。

「そうです。インフルエンザの原因はインフルエンザ菌であり、腸チフスの原因は腸チフス菌であり、赤痢の原因は赤痢菌であることは間違いありません。病気になる原因は人間にあるので、病原菌は縁に過ぎないのです。私は腸チフス菌にかかりましたが、その原因は、私自身にあるのです。患者の周囲には保菌者でありながら、健康な人もいます。菌がどれだけ多くいても菌によって病にかかる可能性を持った者がいなければ、菌の研究さえ不要ですよ。

だからまずは背骨の狂いを正し、なるべく生の野菜を食べ、薄着になることが、病気になる

る可能性を低くするのです。火食によって、生の水分とビタミンCの補給をなくし、立っていることによって手足の静脈を怒張させ、着物を着てその怒張を持続させることになったのです。

——熱が出たときはどうしたらいいですか？

「少なくとも3時間は、熱を冷まさないほうがいい。熱も40度以上になると、行き過ぎになって脳細胞を破壊しますから、冷やす必要がありません。菌の中でも肺炎菌は耐熱性が強く、39度以上が3時間以上続くと、急激に増殖しますので、39度以上だったら頸動脈のところをぬれタオルで冷やします。氷では冷やしすぎて後遺症が残ります」

昔は熱いお風呂に入り、お風呂から出ると、玉子酒を飲んだり、熱いそば汁で風邪一夜薬という発汗剤を飲んでひと汗したものです。とにかく熱で菌を死なせ、出来た毒素を汗で排出すると、やれやれという事になりました。

今は病気の原因が明らかになったので、ビタミンCを十分に摂って、細菌の侵入口となる傷をつくらず、手足を上へ上げて静脈の緊張をなくし、温冷浴によって殺菌する。風邪をひく条件をなくすので、急に寒さにあっても風邪をひくこともない。

もしも発熱したら20分間の足湯をしてすぐに直すことができます。

特集

心と身体 の健康

西館好子

先妻の子の男の子(私の父は医者から「この子は到底七歳までは生きられないから、柔らかいものを食べさせて温かくして育てなさい」といわば今なら余命宣告のようなご託宣を受けてたこと、それはそれは気苦労の中で育てた。

色白で虚弱だったその子が七歳を過ぎても元気でいたが、自分の産んだ長女と二女は四歳と二歳で急死した。

元気でまりつきをして遊んでいた子が夜になつて熱をだして吐いた。次いで下痢が始まりあつという間に一晩で身罷つたのだ。

「疫痢」と診断され、その病は大正時代の当時、突然子の命を奪う流行病だった。今という「自家中毒」ではなかっただろうか。

以後祖母はどこからか人間の身体は四つの流れる体液があると教わってきた。その体液がバランスよく動かず乱れることで病気になるという説を信じた。

それは「赤」の血液の流れ、「黄」の胆汁の流れ、「白」のリンパの流れ、「黒」の体液の四つということ、そんな色の紙を帯に挟んで後生大事に持っていた。食事でも色分けされて必ず食材を多色にしていた。

にも関わらず、今度は次女も同じに疫痢である世に取られてしまった。子を失くす親ほどつらいことはない。

それから祖母はだるい、眠い、いつも苦痛や圧迫感を感じる、手足が重いつつとした精神的な症状が続ぎ、ついに慢性頭痛という持病から解放されることはなかった。

留めはやつと二十歳になった我が息子を「肋膜」で失くしたことだ。大きな体格はまったく病氣とは縁遠いもの、頑強なものに見えたが病魔はしっかり結核菌の侵入を受けていた。

ここでもは初期には「風邪」と診断され、長引いた風邪は実は結核菌というばい菌による伝染病とわかり、当時は戦時中のことでまだ抗生物質などもないから、只寝ているしか手立てはなかった。

何とか体格がよかったせいで一段落したと思つた矢先、徴兵検査で「肋膜」という診断が下



画・喜多川昌之

COLUMN

ろう障がい者の子守唄

村井繁雄

ねんねんよ〜おころりよ〜、赤ちゃんがおっぱい欲しいと泣き出す。初めてのお産で戸惑うお母さんは「耳が聞こえません」。そうお父さんもです。ろうあ者同士のご夫婦は、赤ちゃんが出来て愛に包まれた日々を過ごしていました。オムツが濡れてグズったり、お腹がすいて泣き出すのは親がすぐそばにいない限り、わかりません。赤ちゃんを「あやす」ことが難しいのです。

夫か妻、どちらかが健常者というのにもかかわらずに見受けられますが、一般的にろうあ者のご夫婦は、お互いにどちらもうあ者が大半です。ろうあ者のご夫婦は、日常、手話のみで話します。

ろうあ者は、先天的に聴覚障害があった人、生まれてから、幼児期に高熱などの病気に聴覚機能を失った人。そのどちらかのようなのです。お父さん、お母さんがろうあ者であっても、生まれる子どもは、凡そ聞こえの遺伝はされずに、しっかりと聞こえる赤ちゃんです。

そこで普通の母親の育児とは違い、苦労があります。夜中に赤ちゃんがむずむずも、泣いてもお母さんには聞こえないのです。川の字に寝て、夫婦がお互い動きを注意し合ひ、その都度オムツを換えたり、授乳をしたりしますが、それでも泣き止まないときは、「子守唄」が頼りなのです。

ろうあ者は子守唄がわかりません。「子守唄」で、カセットテープの登場です。「子守唄」のタイトルをいくつかカセットデッキに差

し込み、音は適当な目盛りに合わせます。それがどんな唄か、知りたくても聞こえないのです。

抱っこした赤ちゃんが、それに合わせて寝てくれるまで、テープを戻して、かけてを繰り返します。赤ちゃんを抱っこしながら、毎日昼も夜も、これが母親の務めと続けました。

カセットデッキが一般に普及したのは、昭和50年代の中ごろであったかと思えます。それよりも前はどうかやって「子守唄」を赤ちゃんに聞かせたいと思ったのか。どんな子育てをしたのか。当時のろうあ者はいづれも家族の協力なくして、育児をしていくことはできなかったと思います。

昭和の時代、多くのろうあ者は、貧困や差別などの苦難の中で子育てをしてきたであろうことがうかがえます。現在では障がい教育が浸透し、障がい差別されることはありません。またカセットデッキではなく、DVDもあり、映像もテレビに飛ばせば出てきます。それでも聞こえない母親は、今でも同じ行動を繰り返します。ろうあ者は音楽を楽しむことができない。それは仕方ないことですが、太鼓の連打などは、音として感じるものがあります。それ以外は、視覚から入る映像で見られる音楽となります。

若いうちが「ダンスを踊りたい！」と言います。かなえるべく健常者と手話通訳者が協力して「音」と「ステップ」を一緒に指導します。これは楽しく、ろうあ者の一歩進んだ娯楽のひとつです。

子守唄もぜひ聴覚障がい者に伝えていけるといいと、思っています。



「感染症文学論序説」

石井正己著（河出書房新社）

INTRODUCTION

コレラ、結核、腸チフス、スペイン風邪。日本もこれまでたびたび感染症に見舞われてきた。その感染症に文豪たちは、どのように立ち向かい、どう書いたのか。国文学者である著者は、新型コロナウイルスを日本人のほとんどが「対岸の火事」としか思っていなかった2020年初頭から感染症の勉強を始め、感染症を題材とした文学作品を集めたという。

芥川龍之介は、短い間にスペイン風邪に2回感染して寝込み、辞世の句まで詠んでいる。世界で4000万人、日本で45万人が3年の間に亡くなった時代だった。

また与謝野晶子は、家族で何度も予防注射を打ち、スペイン風邪が大流行してから対処したと政府を「盗人を見てから縄を縛う」という日本人の便宜主義だと批判したそう。晶子自身も高熱にうなされ「感冒の床から」を書いている。

著者は「感染症文学を読むと、感染拡大の時期を当事者として生きた感覚や思考が実に細やかに書かれていることに驚いた」としている。

感染症と文学。文学好きには、なかなか興味深い1冊だ。



『夜のお散歩』

ある日の夜
風呂上がりに涼みに外へと
散歩する

町は街灯に照らされ
家々が黒いシルエツトになって遠くに見える
僕の周りは
風の音と無私の声に包まれ
自分の足音だけが響き渡る
なにもかも忘れ
この自然の音たちを聴きながら
歩いていると心が落ち着いてくる
まるで自分も自然の一部に
なっているような気持ちになっていた
そして、自分が来た道を元に戻り
帰路につく
秋が、そっと、夜から顔を出していた

星野 駿

POEM

風流子ども歳時記

（秋の夜長の怪談「続百物語」の巻）

わらべうた研究家 尾原昭夫

平家物語と平家琵琶

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響あり。

この天下の名句で始まる『平家物語』は、まさにその一句に全編が凝集され象徴されているといつて過言ではない。そして、終末における象徴的な箇所としては、壇ノ浦の「先帝身投」が挙げられるであろう。

『平家物語』は本来琵琶を伴奏に語られる物語り物として成立した。音楽的には天台声明を背景に、琵琶のわびさびの音色とともに、調絃もその旋律にかかわっていると考えられる。平家琵琶（平曲とも）は、その後派生した薩摩琵琶や筑前琵琶とは打って変わって、じつに幽玄・素朴、まさにこの悲劇にふさわしい虚無感・寂寞感が全体をおおう。それを専門的に伝承したのが琵琶法師であった。多く盲目の検校たちによって嚴格に扱われ、いくつかの流派に分かれ伝承されて現代にまで継承されてきた。次に物語の最も悲痛な場面、「先帝身投」の部分の挙げる。

主上今年は八歳にならせ給へども、御としの程よりはるかにねびさせ（大人びて）給ひて、御かたちうつくしく、あ



船幽霊

竹原春泉画 絵本百物語 天保12年(1841)刊

たりもてりかかやくばかりなり。御ぐし黒うゆら〜として、御せな過ぎさせ給へり。あきれたる御様にて、「尼せ、われをばいづちへ具してゆかむとするぞ」と仰せければ、いとけなき君にむかひ奉り、涙をおさへて申されけるは、「君はいまだしろしめされさぶらははずや。先世の十善戒行の御力によつて、いま万乗の主と生れさせ給へども、悪縁ひかれて、御運すでにつきさせ給ひぬ。まづ東にむかはせ給

ひて、伊勢大神宮に御暇申させ給ひ、其後西方浄土の来迎にあづからむとおぼしめし、西にむかはせ給ひて御念仏さぶらふべし。この国は粟散辺地とて心憂きさかひにてさぶらへば、極楽浄土とてめでたき処へ具し参らせさぶらふぞ」と泣く〜申させ給ひければ、山鳩色の御衣にびんづら結はせ給ひて、御涙におぼれ、ちいさくうつくしき御手をあわせ、まづ東をふしをがみ、伊勢大神宮に御暇申させ給ひ、其後西にむかはせ給ひて、御念仏ありしかば、二位殿やがていただき奉り、「浪の下にも都のさぶらふぞ」となぐさめ奉つて、千尋の底へぞ入り給ふ。

これを語る平家琵琶の伝説の名手こそ、かの有名な小泉八雲の「怪談」へ耳なし芳一への芳一であった。

小泉八雲の怪談「耳なし芳一」

「怪談」といえば誰しも小泉八雲（ラフカディオ・ハーン一八五〇〜一九〇四）の「耳なし芳一」を思いおこすほどに人口に膾炙したこの名作にも、じつは江戸時代後期の原本があった。天明二年（一七八二）京都菊屋安兵衛刊、一夕散人著『臥遊奇談』の「琵琶秘曲泣幽霊」がそれである。八雲が依拠した資料とその再話文学との対比というところにも意識を向けつつ両者を読み比べてみたい。まずは「琵琶秘曲泣幽霊」の冒頭。

長州赤間関は古源平戦争の地にして、千載の遺恨をとどむ。幽魂長く消する事能はず。月明らかなれば海面にあやしき声をきき、しきる夜は平沙に鬼火を飛ばす。後世にいたつて一字を建立し、幽霊を慰する其名を阿弥陀寺と名づく。一門の緝紳（身分の高い人）及び兵士、多少の古墳を連ぬ。爰に阿弥陀寺の近辺に替者あり。芳一といふ。

幼少より琵琶に習熟して、長ずるに随ひ其妙を極む。三位（さんみ）伯雅の昔を悲しみ、関の蟬丸の面影をうつして、明て弾じ暮てかきならず。其頃世に称じて、芳一が平家をかたるや人を感泣せしめ、鬼神を動かすとぞもてはやる。 （略）
一日、和尚法務によつて他に出らるるに当つて、芳一暑威をさけんがため、客殿の椽上に独座し琵琶を弾じけるに、夜深更に及で門人あり。内に入て椽下に立、芳一〜と呼ぶにぞ、撥をとどめて、誰にてわたり候やと問へば、くるしからず、近辺の者なるが、去る緝紳の御方歌枕に寄せられ、壇の浦の陣跡をさぐらせられんが為、此地に遊歴まし、近辺に投ぜられる。しかるに汝が琵琶端正を極むるの旨風説あれば、こよひの御つれづれ、御旅館に召さしむ。我に随ひ来るべしと。 （略）

（一全訳小泉八雲全集第十巻「恒文社刊」）

原本の奇談と八雲の作品「耳なし芳一」（原文英語）を併せ読むと、その文体の違いにとどまらず、両者の文学性の差異にも注目せざるをえない。次は平井呈一訳による「耳なし芳一」冒頭部分である。



芳一像
下関市赤間神宮 図説日本の古典「平家物語」集英社刊より

今から七百年あまり前のこと、下の関海峡の壇の浦で、長らく天下の覇を争っていた源平両氏のあいだに、最後の決戦がたたかわれた。この壇の浦で、平家は、一門の女子ども、ならびに、こんにち安徳天皇と記憶されているかの幼帝ともろともに、まったく滅び絶えてしまったのである。その後、七百年のあいだ、壇の浦の海とあのへん二帯の浜へは、久しいこと平家の怨霊にたたられていた。(略)いまでもあのへん二帯の海岸では、かずかずの不思議なことが見たり聞いたりされるのである。闇の夜に、幾千ともしれぬ陰火



平家七盛塚
赤間神宮 実用特選「平家物語」学研刊より

が浜べにあらわれたり、波の上をふわふわ飛んだりする。これは、俗に漁師どもが「鬼火」といつている青白い光りものであるが、そうかと思うとまた、風の荒く吹きすさぶような日には、きまつて沖の方から、ちよつど合戦のおりの関(こき)の声のような、すさまじいおたけびの声がおこつたりするのである。(略)やがて裏門の方から、人の足音がこちらへ近づいてくるのが聞こえてきた。だれか裏庭をぬけて、縁先の方へやつてくるのである。と思つているうちに、足音は、芳一がいるすぐ前まできて、ピタリと止まった。だが、それは和尚ではなかった。太い、力のこもつた声で、盲人の名を呼ぶのである。いやにけんどんな、ぶしつけな呼びかたであった。ちよつど、侍が下郎をきびしく呼びつけるような調子である。

「芳一！」

芳一はぎよつとしたあまり、しばらく返事をしかねていた。すると、声は、ふたたびきびしく命ずるような調子で呼ぶのである。

「芳一！」

「はい！」

と盲人は、相手の声音の高飛車なのに、おろおろしながら答えた。

(「怪談」ラフカディオ・ハーン作、平井呈三訳、岩波書店、岩波文庫)

筑前琵琶の上原まりさんは、畢生の大作「平家物語」を完成されたが、残念ながら三年前他界された。薩摩琵琶や筑前琵琶は、今競つて「平家」を語る。平曲の伝統を保ちつつもその殻を捨て、つぎつぎと器楽・声楽両面で新しい創作へ挑戦が続けられ、まさに平曲の新時代を迎えている。

聞かせますからしばらくの間聞いてください」と、それはざつと次のような話だった。

「実はね、十二年十二月に死んだ妹のトシ子が夕べ遅く僕を訪ねて来たんだよ」二月の夜は寒かった。先生はいつものように表二階の八畳間に丸くなつて寝ていた。

時計は夜中の十二時を少し過ぎていた。その時先生の耳に外の下ろし戸をトントンとたたく音が聞こえてきた。耳をすましてじつと聞き耳をたてると又トントンとたたく音がする。しかし声は無くしきりに叩く音だけ。先生は寝巻きに着替え急いで帯をしめ階段を下りて、土間を走るようにして下ろし戸を静かにあけると、死んだ筈の妹トシ子さんが女学校教諭当時の紫のハカマと長袖の着物姿で立っていた。

「トシ子じゃないか、寒いから中に入りなさい」と手をとらんばかりにして自分の二階の部屋に連れてきた。生きていた賢治先生とその空間の中で話合つたトシ子さんを再び階段を下りて仏間に導いた。賢治先生は静かに座して、しばし経を読み始めた。

読経の声をさましたご両親には賢治先生二人だけ手を合わしている姿以外に何も見えなかった。「さあトシ子帰らなければならぬのだ。お前は生きていた時、学問と一緒に立派な苦行をつんだ立派な宗徒だ」と云いつつ、外の下ろし戸を開けて妹トシ子の手をとらんばかりにして見送つた。外は寒い夜空に小雪がまじりその中にトシ子さんの姿が次第に遠くへ遠くへと消えて行つた。

(「マコトノ草ノ種マケリ 師父賢治先生回顧」花巻農業高等学校同窓会刊より抄出)

なお、宮澤賢治と妹トシ子については、筆者の近著『宮澤賢治の音楽風景―音楽心象の土壌―』も参照いただければ幸いである。



妹トシ子が療養し賢治が看病した宮澤家別宅
(現花巻農業高校内保存)

宮澤賢治の妹トシ子の幽霊

前回ふれたように、宮澤賢治も奇談には関心が深く、佐々木喜善とも会い、「さしき童子のはなし」を執筆した。また、愛する妹トシ子を失つた深い悲しみのなか、ある日トシ子の幽霊が賢治を訪ねてきたということの花巻農学校の教え子に語っている。

教え子松田浩一は、賢治の劇「饑餓陣営」上演のとき古参の軍曹役を演じた音楽好きでバイオリンが得意、賢治とは個人的にも接触が深かつたので、恩師の思い出を書き綴っていた。その遺稿のなかに、大正十三年二月のこととして次のようなトシ子の幽霊話が記されていたのである。

先生は食べ終つた弁当を急いでしまひ込み、やおら私達に向かつて「今日は少し時間もあることだし、幽霊の話

第30回 「旅のおわりに 人はなぜ子守唄を歌うのか」

二〇一一年五月発行『ららばい通信』第3号以来、丸一〇年にわたって本誌に連載してきた「世界子守唄紀行」だが、第30回となる今回もつてひとまずの締めくくりとする。

第1回において、人々が歌い継いできた実際の子守唄の姿、すなわち「子守唄の原像」を求めての旅路をたどりながら「人はなぜ子守唄を歌い継いできたのか?」「はるか遠く離れた英国スコットランドと京都市竹田によく似た子守唄があるのはなぜなのか?」という二つの問いに思いをめぐらせてみたいと記した。二つの問いについて、現時点で言えることをまとめておくことにしたい。

順序が逆になるが、まず二番目の問いの方から答えていこう。第1回に紹介したスコットランドの子守唄「カトー・ハチャー・ミー(私は眠れない)」と「竹田の子守唄」が似ている理由はまず、両方の子守唄には「フアとシを除いた五音(ド・レ・ミ・ソ・ラ)で構成される「ヨナ抜きペンタトニック」と呼ばれる音階が用いられているのだが、これはスコットランド民謡の特徴であると同時に、日本の伝統的な音階の中にも律音階または呂音階と呼ばれる類似したものがあるからだ。この音階は、イギリス全土やアイルランドの人々、チェコをはじめとするスラヴ諸民族、アメリカ先住民をはじめとする環太平洋の人々、漢民族をはじめとする中国の諸民族など、世界各地の諸民族の伝統音楽に共通して見られ、人類史における「古層」の音階の一つと考えられている。

もう一つの理由は、今日流布している「竹田の子守唄」の旋律は伝承のものではなく、一九六〇年代に尾上和彦によって改変された版(バージョン)と言われているが、改変にあたって尾上和彦はアイルランド民謡「ロンドンデリーの歌」をイメージしたと証言しており、いわばアイルランドやスコットランド風味の「味つけ」がこの子守唄には施されているからである(本連載第15回を参照)。そして尾上和彦がこうした「味つけ」を

テーマがある。「(私は眠れない)」の主人公(二人称)は夫を海難事故で喪った悲しみで夜も眠れない(「今夜、私は眠れない。大切な人が帰ってこないから」)。一方、「竹田の子守唄」の主人公は子守奉公に出されてやせ細り、親ともなかなか会えない(「この子よ泣く 守りをばいじる 守りも一日 やせるやら」)。こうした理不尽で過酷な現実を必死に堪え忍び、なんとか正気を保とうとして自らの想いを言葉に紡いだ、そんな歌詞である。そして、具体的にまったく同じ状況とは言えなくても、やはり何らかの理不尽な現実を置いて子育てをする中でこれらの唄を耳にした人たちは、主人公の心情を我がものと受け止めて、歌い継いでいった。これが、二つの子守唄に共通する曲調としての「哀感」をもたらしているのではないだろうか。

以上のことは、一つ目の問いの「人はなぜ子守唄を歌うのか」に対する答えにも関わってくるように思う。すなわち、理不尽な現実を堪え忍び、その過酷さに心をへし折られてしまわないよう自分自身に向けて歌ったと思われる子守唄が世界各地にいくつも残っている。戦争、自然災害、飢饉、疾病、事故、貧困、差別、家族や社会からのハラスメント……、幼な子とその子を守り育てる「私」の周りにはさまざまな、自分の力や意志ではどうにもならない理不尽な出来事が次々と襲ってくる。その圧倒的な力に呑み込まれてしまうことなく、それでも上を向いて生きていこうと自分に言い聞かせるため、人は子守唄を歌い継いできたのではないだろうか。

それからまた、自分のためだけでなく、こうした理不尽な出来事を次の世代や後の時代の人たちに伝え残していかなければという思いも、子守唄を歌い継ぐ大きな動機となっていたに違いない。一〇年前の東日本大震災とそれから引き続き全国各地で発生してきた震災や豪雨災害、そして今般の新型コロナウイルス感染症もまた、理不尽な現実には他ならないことを顧みる時、今日もなお、そうした子守唄を歌い継ぐことの意義は小ささも失われていないように思われる。

一方、今日における社会問題と関わりを言えば、子どもへの虐待を思わせる残酷な内容を含む歌詞の子守唄が世界各地にある。「泣けば空からおつかない鳥が降りてきて突つつくよ」(第13回アイヌ)、「ココ(化け物)がやって来てたべちゃろぞ」(第16回スペイン)、「起きているとココヨーテがさらっていくよ」(第27回グアテマラ)……。このような子守唄

した背景には、多くの日本人が、明治以来の学校教育の中で「蛍の光」や「故郷の空」(「夕空はれて秋風ふき」)をはじめ、スコットランドやアイルランドの民謡・歌曲の旋律を用いた唱歌を繰り返し口ずさんだことにより、これらの風味の「ヨナ抜きペンタトニック」に格別のノスタルジーを覚えるようになったということもあるのかもしれない。

但し、そこに詠い込まれた歌詞の内容が、曲調に一定の影響を与えていることは疑いなく、歌詞についても見ておく必要があるだろう。二つの子守唄の歌詞には、理不尽な現実に対する悲嘆やあきらめという共通する

赤い鳥版「竹田の子守唄」

もりもい やー が る
ぼんからさ きー にや
ゆきもち らー つ くし
こもな くー し

(藤田正「竹田の子守唄 名曲に隠された真実」2003:167)

「私は眠れない」

Cad-al cha dean mi Sug-radh cha dean mi-se
Nochd cha shaigh mi tamh 's gun mo ghradh a' tigh-inn.

(鵜野祐介「スコットランドの子守唄20選」2005:17)

は、なかなか寝ようとせずむずかる子どもに対する苛立ちが、社会や民族を越え、時代を超えて、子どもを守り育てる者が共通して持つ、素直な感情であることを意味している。そしてこの感情をコントロールするための方法が、残酷な子守唄を歌ってストレスを発散させ、カタルシス効果を得ることだったと考えられる。つまり残酷な子守唄を歌うことで自分の内に沸き起こる暴力的な負の感情を制御することができていたのだ。だから、「歌詞の意味を知ったら子どもがトラウマになるかもしれないから、そんな残酷な子守唄は聞かせるべきではない」と一概に否定するのはなく、子守りに奮闘するお母さんやお父さんにこそ、こうした子守唄を教えてあげたい気がする。

最後にもう一つ、幼な子に対する愛おしさと、その子の未来に対する祈りが、子守唄を歌うことの原点であることはやはり間違いないだろう。「眠れ眠れ 愛しい坊や」(第5回ユダヤ)、「うちの赤ちゃん よく寝る よく寝て よく遊ぶ」(第9回韓国)、「風が吹いたらヌーラちゃんにアンズの実を摘んであげよう」(第20回シリア)、「この世で一番愛しいわが子」(第24回スロヴァキア)、「ああ泣かないで 私の愛する宝物」(第28回ナイジェリア)……。

たとえ現実がどんなに困難な状況にあり、周りの世界には絶望や不安があふれていても、目の前にいる幼な子を愛しいと思えば、この子を守り育てようとする意志が、そしてその子の未来が今よりもっと明るく希望にみちた世界である

ように祈ること、それが人類共通の、子守唄を歌うことの意味である。なぜなら「子どもは未来である」(小林登)のだから。長らくのご愛読に感謝いたします。またお会いしましょう。



小林登先生は当協会の二代目会長です

海に落ちた黄色いカボチャ



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使



黄色いカボチャ



かぼちゃがない

コロナも終息になるのかと淡い期待を抱き、9月のキャンペーンなどというものに浮かれてしまった去年の夏休みであったが、今年になってからの感染者はすさまじいものがあり、観光地の直島も訪れる人も少ないひっそりとした静かな夏休みとなった。ワクチン接種も早々と済ませた島の高齢者の私達は、出かける場所もなく、外に出れば暑いのでひたすら家の中でテレビ観賞するしかなかった。

数年前から、テレビでは年中、異常気象ということばをきく。気温の異常もさることながら、雨が降ればこれも、想像を超えた量の雨で大災害も毎年のように起こり、その悲惨な被害には毎回目を覆いたくなる。

今年も九月の台風シーズンよりも早く大雨の災害がたくさん起こり、土砂崩れの被害も繰り返してテレビでながれ、胸がいたくなった。

もうこれ以上、大きな被害は出ませんようにと願っていたが、八月八日ころから西日本も、大雨警報が出て、特に八月八日の夜からは激しい雨風となり、寝ていても、家の屋根が飛んでしまうのではないかと思うほどの雨風であった。九日の

家の中でひっそりと通過するのを待っているという状況の時、子供たちから、「黄色いカボチャが海に流されて大変なことになってるよ」というメールが届いた。見ると直島のシンボルのような黄色いカボチャがくるくると波間にただよっているではないか。かぼちゃというのが、直島といえればかぼちゃというくらい直島を象徴するもので、世界的に有名なアーティスト草間彌生さんの作品で、草間さんといえば水玉模様とかぼちゃで知らない人がないというくらい有名である。

直島にフェリーで着く宮浦の港には大きな赤いカボチャが出迎える。島に着いたとき、帰るとき、必ずみんな、この赤いカボチャに目を引かれ、記念撮影する。

そして、島の反対側の海辺、ベネッセのホテルや美術館がある近くの海辺にはもう一つ黄色い

朝になっても雨は止まず、風も衰えを知らず吹き荒れていた。みんな

カボチャがある。そのかぼちゃは海辺からつき出た突堤の先に係留されていて、満潮の時には、かぼちゃが海に浮かんでいるように見えて、これも作品として素晴らしい。こちらも撮影スポットで、いつも行列ができる。

私の旅行鞆にもかぼちゃのキーホルダーをつけているが、時々「直島に行きましたか?」とか「直島に行ったことがありますよ」とか声をかけられることがある。

その黄色いカボチャが三つに割れて、海に漂っている映像がネットで世界中に広がったのだ。今はネット時代であつという間に世界中の人が知ることになる。草間さんのあの独特の水玉、書き始める前は必ず長い時間、瞑想をして、それから書き始めるのだと、ご自身の本に書かれていた。大変な集中力である水玉模様がかかっているのだ。赤と黄色のかぼちゃ二つで数億円すると聞いたことがある。その直島の宝の一つが嵐の海にただよっている。

何とかうまく回収できたようであるが、一日も早く元のすがたにもどって、また、たくさんの人のカメラの被写体になってほしいものである。

翌日、雨が止んだ時を見計らって現場に行ってみるといつもの場所にかぼちゃはなく、4か所ずつながれていたコンクリートの支柱はぼっきりと折れていた。

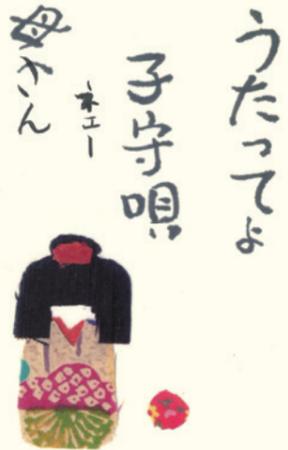
その後も雨は数日続き、梅雨のようなお天気が続いたが、一〇日後の夕方、南無庵から見える東の海に半円形の見事な虹がかかった。それはそれは美しい虹で思わず撮影したが、いままで見たこともないような美しいものであった。どうぞコロナも異常気象もこのくらいにしてください。私たちが身の程を知った生活をしますからと、手を合わせた。

合掌

COLUMN

『ららばい通信』のおかげで、母のことがひとしお懐かしく思い出されます。母が妹や弟のためによく唄っておりました

そんな便りが、神奈川県藤沢市の七字泰美さんから届きました。譜面も七字さんがお書きになったようです。七字さんのお母様の思い出の中に子守唄が色濃くあるのでしょうか。懐かしい感じの旋律ですね。



男のひり料理

絵・文 永瀬 嘉平
(元毎日新聞記者、ナチュラリスト)

かぶの塩こんが合え



カブはヒョウでうすく切って市販の細切りコンがと合える。カブの葉を少し加えて。冷酒においし合。

ACTIVITY REPORT

子ども配食の現場から②

樋田 敦子

ひとり親(父子家庭もいる)支援のために配食を始めて半年が過ぎた。配食で食料をただお渡しするのは、私たちの本懐ではない。困難を抱えている一時期、食糧支援はするが、その後は自立して配食から卒業していったほしいと願っているからだ。現在はコロナ対策のため、玄関口で、立ち話程度の聞き取りを行なっているが、先日はアンケート調査をして、本音を書いてもらった。そこからひとり親たちの窮状が見えてきたので報告したい。

16世帯から返答があり、13人が非正規雇用で、2人は無職。1人が生活保護を受給していた。無職の女性は、求職中で児童扶養手当と元夫から入る養育費などで暮らしている。

食事は、子ども優先で食べさせているので、親の中には一食抜いている人もいた。特に夏休みは給食もないので、家にある食料はすべて子どもに与え、自身は残り物を食べる。お母さんのひとりは、夏場に明らかに痩せた。「きちん」とご飯食べてないでしょ?」と聞くと、ただ笑っているだけ。食べ盛りの小学生2人がいては、自分の分まで行き渡らないのかー。

皆、少しでも時給の高いパートや非正規でも安定した雇用の職場を見つけないかと思っている。しかし、コロナ不況で求人がない。しかも、かつて独身時代に勤めていた会社で行なっていた総務、経理の仕事は今ではあまりに少なくなっているのだ。PCはマストで、当時よりも高いスキルが求められる、人間がしていた仕事は、すでに

AIにとって変わられていっているので、良い条件の転職はかなり難しいのである。

「ハローワークでも、ネットでも求人を見ているんですが、ここで働けるかの自信がなく、自分でも何ができるか、何がしたいかが分からない」と話す。

介護職や保育の仕事は、たくさん求人があるが、「保育所に預ける時間の関係でできない」「子どもを家に置いていけないので夜勤は無理」「すぐに帰れる距離ではないので、通えない」介護職に就いたが、試用期間中にひどい腰痛になり、辞めた人もいた。

また新学期や新入学に際しては、出費が高む。ほとんどの公立校では、制服、体操服のほか、鞆やサブバッグに至るまで学校指定のものを購入しなければならず、そのために会社で頼んでシフトを増やしてもらったり、パートを掛け持ちすることもあった。

「来年は高校進学なので、入学金や授業料をどう工面しようか頭が痛い」そう悩む人には、資金面での説明をしてくれるフィナンシャルプランナーによる進学相談会への出席を勧めるが、「行ってきた」という報告はまだない。

こうしたやりとりを聞いた理事長が言う。「私たちの時代はなんだってやってきた。低収入で子どもを育てられないなら、仕事を選ばないで働けばいいのに」

確かにかつてはそういう時代だったかもしれない。みんなが餓い(ひもじい)ので、なんでもやっただという話は聞いている。しかし現在は、効率よく、子どもの面倒が見られる程度で暮らしていければいいと考える。やみくもに働くよりも「人生の質」で就職を選ぶ風潮なのだ。

活動報告

■日本ららばい協会のホームページにアクセスしてください!
<https://lullaby-japan.com/>

ららばいチャンネルもチャンネル登録をお願いします。

YouTubeにあげている子守唄は、ららばい協会の真骨頂。癒し系の楽曲だと、今大注目を浴びています。最高の眠りを得るためにも、おすすすめです。

■あなたの好きな子守唄募集中
ららばい通信の読者の方の、「好きな子守唄」を募集しています。子守唄は、子どもだけのものではありません。昔聴いた子守唄、聞いてリラックスできる子守唄など、思い出やエピソードを添えてお知らせください。

■原稿募集のお知らせ

コロナで思うようにいかない、こんなご時世。訴えたいことは、皆さん多々おありかと思えます。そこで、なんでも投稿欄を作り、双方向でやり取りをしたいと思えます。ぜひ投稿してください。みなさんの声をららばい通信に反映させていただきます。

■ご寄付のご案内

【寄付振込先】
○みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012

○郵便振替口座
0015003-5753009



活動予定

■特別講演「子守唄へのこだわり」

開催日：令和3年11月2日(金)

会場：霞が関イイノホール

出演者：山田邦子とスター混声合唱団、川口京子、稲村なおこ、西山琴恵(うた)、はせがわふさこ(ピアノ)

■お知らせ

ららばい通信の表紙を書いてくださっている、葛飾区在住のイラストレーター、大野隆司さんの「エンドレスカレンダー」軽い励まし系(定価3000円)が完成しました。表は木版画、裏はイラストで、1冊で2冊分とお得!と大野さんはコメント。

エンドレスカレンダー「軽い励まし系」



配食で配られた絵本を熱心に読むお子さん

